

雜 錄

最近外國雜誌の抜き書き

黒田定治先生を送る

關西旅行日記

會 報

第二十四回學術談話會記事

領 收 報 告

母校記事

編輯便り

環 イ ネ

田 中 セ ツ

荒 木 ツ エ

近 藤 耕 藏

技術科四年一同

學術談話會技藝科部會報 第七號

谷口先生のお話

今日は孝道と云ふことについてお話を致します。

孝道とは親に事ふる道でありまして、人の誰も知つてゐることであります。誰も知つてゐることを新しそくに云ふは、世情に迂遠の様であります。所が誰も知つてゐることを誰もあまり注意しないことが、世間には多くあります。ここに於て孝道のことにつき、私のいさゝか研究したる所を述べませう。

孝道といふことは文字の上に書き表はしたるものではなく、支那の經書にある様です。併し乍ら日本の神代の昔より孝道はあります、中江藤樹先生は孝道は天地の未だ判れざる前より存在して居ると云つて居られます。併し天地が未だ成立しない前に孝道が如何にして存してゐたかと云ふことは、哲學上の深遠な研究に屬すること、一寸私共の確に知る能はざる所であります。それでは神代の昔に孝道が如何にしてあつたか？

天照大神が齋服殿織殿を作り給ひてはじめて天津神を祭り給ひしことは神代の記録にあります。天津神は天照大神の御先祖であります。祖先を祭ると云ふことは禮記にあります所の報本反始の

意味と同じ譯であります。父母あつて我あり、祖先ありて然る後に父母があるので御座いますから、祖先を祭ると云ふことは孝の第一義であります。祖先を祭ると云ふ形式の内には單に祖先を忘れないばかりではなく、祖先の意志を繼いで益々之を發展すると云ふことが籠つて居ります。此に於て祭が無意味でなくなります。

伊弉諾神伊弉冊神が天の浮橋即ち舟に乗りて、大八洲を開拓せられて、統治權を確定し給ひ、天照大神が其御遣志をば御繼ぎになりまして、農工商漁業を始め、醫藥のことに至るまであらゆる人類の生活文明を進歩せしめることにつきまして、小からず神慮を勞せられ、遂に大日本帝萬世の基をば造り遊ばされたので御座います。最大最善なる孝道の模範を御示しになりました譯で、國體の神髓も此に淵源します。

孝道とは多くは小さきことの様に考へられてゐます。此迄俗間に傳説された孝行の話は、多くは匹夫の小孝であります。譬へば雪中の筍を掘り寒中に鯉を捕へたこと、又は貧乏の子供が親の病氣をよく看護したることなどであります。なるほど之も孝に違ひありません、併しかゝることのみを孝道と申しますれば陳腐であります。かくすれば孝道は貧乏又は下層社會にのみ行はれ、富者若しくは上層の人に行はれない狭い意味となりまして、孝道の大精神には適ひません。我國の孝道は天照大神が身を以てお示しになつた所であります。我國は昔より上たる御方が身を以て教

を示し給ふ國で、これが我國の最も尊い所であります。言語文章の上に表はさる孝道が儼然我國にあります。孔子は孝道の最も尊きを示して「夫孝は善く人の志を繼ぎ善く人の事を述ぶるものなり」(中庸)と是實に孝道の第一義であります。よく人の志を繼ぎよく人の事を述ぶるとは、祖先並に父母の意志を繼承して、之を發揚せしむるものであります。この意味を以てすれば、孝道の意義儼然として、古今に通じて變ることはありません。神武天皇が諸賊を平げ給ひて、始めて都を大和の橿原に定め給ひ。間もなく即位四年祭の時を鳥見山に築き給ひて、天津神國津神を祭り給ひ。天皇勅して曰く「朕が皇祖の靈天より降鑑し朕が躬を光助す宜しく之を郊祀し、以て大孝を伸ぶべし」と。我皇祖皇宗の神靈が天より下りて吾人を助け給ひ、御蔭で四海統一の大業を成すことが出来たのであるから、祖先を祭りて報本の誠を表せなければなりません、此が即大孝であつて、茲に始めて孝と云ふことが言葉の上に顯はれたのであります。元が日本書紀にあります。孝道が神武天皇の時に確に勅語となり風教の大本となつたことは明であります。日本は誠に有難き國體でありまして、萬世一系の天皇を上記載き、忠孝は全然一致してゐます。併し世人は多く忠に重きを置いてゐます。又置かなくてはなりません。此精神があつたためによく小國を以て清、露の大國に勝つことが出来たのであります。勿論外國よりの物質的文明を輸入したからでありませうが、主としてこの忠孝の精神があつたためであります。故に何所までもこの

精神を發揮しなくてはなりません。この國家的精神は發達してゐるが、他の公德などが遅れて居ると人が申すのは何故か。又軍隊にはよく精神教育が行はれてゐるが、一般の世人にはこれが乏しきは何故か。

自分の考では、日本の國體は孝に基くものであると云ふことを斷言して憚らないのであります。或人曰く日本の道德は忠に基くと、忠は最も重んずべきであるが、孝が基なることを忘れてはなりません。皇祖皇宗が孝道を示し給ひ、臣民が移して忠となして君に盡す。何れが本であるかと云ふに、孝道が基であります。親に孝を忘れて君に忠を盡すことは出来ません。日本人は昔より廉恥を重んじます。故に武勇を尙ひ、功名に熱中します。そこで忠を獎勵する結果として、孝を忘れることがたまにはあります。君には無上の權があります、君にそむくことは法律によりても出来ません。親には威力がないから、孝をしないで制裁が厳しくない。學校の先生は退學を命ずるから生徒が命令に背かない。親にはこれがないから我儘をする。これが親の弱點であります。權力がないからといつて服従の道を怠るのは本當のものではありません、忠の源泉は矢張孝になくはなりません。本當の飾りなき愛と云ふものは親に於てのみ出来る。親は弱いけれども猶更之に服従すると云ふ心を以て、君に盡せば陰陽なき立派な忠となります。武官には命がけて盡すものは珍しくありませんが、官吏實業家教師生徒果して然るか。甚だ疑問であります、陰陽なき熱誠

的献身的の愛情は家庭の孝より來るものでありまして、我五千萬の心を一にして、以て君に盡す是純潔なる忠であります。ここに於てか金鷄勳章を貰つた人が親の頭を打つと云ふことなく、眞の意味の忠孝一致となるのであります。固より忠は大切でありますから萬一の場合には親を捨て、も君に忠をしなくてはならぬ。忠は重いが、これが孝より來る忠でなくては、眞の忠ではありません。孝とは曰く愛なり、父母を愛する情なり。愛は夫婦を基とすると云ふ人あり。なるほど夫婦ありて子あり。兄弟姉妹があるのですが、親が子に對する程の愛が永久に夫婦間に存するものが、果して幾人あるだらうか。親が子を思ふ心は誰も同じで、山上憶長の歌に「白金も黄金も玉も何かせん勝れる寶子にしかめやも」親が子に對する愛情をいひ表したものであります。

親は子をもつて寶といたします、然るに子が親に對して一片の愛をそゝがない時は、恩に報ゆるに恨みをもつてするのみで、これ果して人間の道でありませうか。天地は無限に生存して居りますのも此報本反始の大義に由るからであります。たとへば吾々が日常使用して居ります所の水は神代から水分が暖熱に遇ふて蒸發しては騰り、それが寒冷に遇ふては雨露となりて降り、つまり上つたものは下り下つたものは上り其の御蔭で天地も維持され、人類も生存し、他の動植も蕃殖してゆくことが出来るのであります。もし水が蒸發し其れつきり降下せなかつたらどうでせう。此の必ず本へ本へと反るのが、これ天地の大法であります。これを知らない人は借金して返すこ

とを知らない人であり、人の親の心はやみにあらねども子を思ふ道にまよひぬるかな」とは藤原兼輔の歌であつて、誠に子を思ふ親の至情を言ひ表はしてあります。皆さんの内には遠方から来て居る人もありませう、而して各々其つとむべき學問に一生懸命になつてゐるでせう。然し親は雨につれ、風につれ、花の香の匂ふ晨にも、月の色の清き夕にも、子のことを考へないことは片時もないのであります。皆さんの内には親様のことをたまには忘れてゐる人もあるかも知れませんが。子をもつて知る親の恩で、子をもたなければ、眞の親の恩はわからないのであります。吉田松陰先生は「親を思ふ心にまさる親心けふの訪れ何ときくらん」といはれました。絶世の英雄に此愛らしき情のあるのが最も尙い所であります。

今日孝は役に立ぬといふ人があります、然し畏れ多くも明治天皇は先々帝の御心をつがせられ、王政復古の大業を成し遂げん爲め、千々に大御心をなやませられ、結果百年の壽命を縮め給ひて國家無窮の基礎を確立せられました。そして教育軍事實業其他百般の進歩を見るに至りましたのを見ても、先帝の孝道の大にして神聖なることを伺ひ知ることが出来ます。

孝道の詳細を知りますには、澤柳先生の著はされた「孝道」と云ふ本がございます。併し此は浩瀚で一寸讀みつくすことが出来ません。簡單にして適切なのは孔子が曾子に傳へられました孝經があります。これ日本に於ては應神天皇より傳はりまして、表向天皇の御學問に用ひられまし

たのは、清和天皇の貞觀二年御年十一才の時に、大學博士春日朝臣雄繼が御講釋申上げましたのが初めてであります。其後代々の天皇は毎年御講義初めに孝經を御讀みになつたと申す。

後には孝經を御進講申上るにはよほどよい家柄の人でなくてはならなかつたので、三條家は世襲で之をして居りました。三條實美公が御薨御の際に遺言さるゝ様、余が死んだならば、香典などを贈つた人に普通の返禮をするのをやめて、我が祖先が自ら寫して其當時の天子様に御講義申上げたのを、其まゝ本にしてすべての知人に配れといはれ。今の公爵が其の通り實行されました。

先帝陛下も孝經をもつて御學問初めと遊ばされました殊に 先帝陛下も御諱は恐れ多くも孝經より御取り遊ばされたのであります此孝經には今文古文の二種あつて今文は十八章で古文は廿二章よりなつて居ます今文が先初めに出て古文は其後に出ました日本の皇室では今文孝經を御取りになつて居りましたか昔の學令には古文も併せ用ゐて宜しいと云ふことになつて居ます。併し私は廿二章の方即古文孝經を採ります。

今より此二十二章の大略を申す。

第一章 之は孝道の第一精神であります。孝道とは我身を修めて立派な人となり親の名をも揚げること、丁度勅語の獨朕が忠良の臣民たるのみならず又以て汝祖先の遺風を顯彰するに足らん」とあるのは此章の精神に符合して居るのであります。

孝道の大用は和であります、即ち睦しくすること、君臣父子兄弟朋友皆心を協せ力を一にする事にあります。又孝は仁であります、仁の字は八扁に二の字があります、人が二人以上あれば其同一致でなくてはなりません。

第二章 天子の天下を治めるには、愛と敬とであるといふことが述べてあります。天子が人民を愛し、人民を大切になさると、人民も天子様に心から盡さうとする、従つて君臣の情が益益濃かになり、四海の人皆相和するのであります。先帝陛下は之を御實行なされた御方であります。我々も人に接するに愛敬をもつてし、親を愛するの心を以て人を愛し親を敬するの心を以て人を敬せなければなりません。僭斯道に由つて人格を修養すると何となく品の高い人となり、心の底から人を愛敬する様になるのであります。

第三章 諸侯の孝道に就て述べてあります。何でもこちらが叮嚀にすると、向ふもそれに倣つて謙遜して来るから、貴族になればなるほど謙遜が必要である。又は節制がなくてはならない、貴族が金持だからと云ふて無暗に金を使つてはよろしくない。それで人からよく云はれ、自分の高い地位を維持するには謙遜と節制に依り徳望と財産とを保たなくてはならん。

第四章 郷大夫即ち一國で云へば、大臣宰相の孝道のことがあります。上の人は吝嗇でもこまる又身分不相應の贅澤でもこまります。程よい所を行つて世の模範となるのか必要であります。言

語舉動を慎み一國の大臣として恥かしくない様にならなくてはならない。一例を挙げれば、故三條公は別に大政事家でもなかつたが品行がよく徳が高かつたから、大に入から敬せられたのであります。

第五章 士の孝道について以孝事君則忠……なりと云ふ事を教へてあります。彼重盛か忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならずと云はれたのは、只一筋に思ひ詰めた餘りに出た言葉であつて、あれは道理上から研究したのではありません。故に同情には價するけれども、實行上の定規にはなりません。

第六章 庶人の孝道、之は我身を慎み、無用の財を節儉して、親に事へることである。即ち「謹身節用。以養父母。此庶人之孝也」とある。

第七章 天子より以下庶民に至るまで終始孝道に由らねばならぬと云ふことを申してあります。

第八章 孝道は天の道、地の道、人の道であつて、聖人が述べたのではなく、自然が大法を示し居るのであります。僭孝道に引入るゝには如何にすればよいかと云ふに、それは天照太神や神武天皇の如く御自ら率ゐなくてはなりません。又大臣宰相でも皆同様であります。即上が禮儀をもつてしなくてはなりません。又教育の道も愛と敬がなくてはなりません。愛は優美の情操であつて、之は音楽に依て養成されます。敬は克己である、即自己の人格及他の人の人格を尊重するこ

となり。此は禮に由つて鍛鍊されます。此の愛敬即優美の情操と鞏固なる意志とが教育上最も必要とする所であり、

敬は水のごとく、愛は火の如く、己に克つとは釜の様である。水と火とは消し合ふが、釜が其の兩者の中間に在る時は、思はない結果が生じてくる。即水が沸騰して偉大の力を生ずるのであります。文明の元は水と火であります。陽明學に「存天理。絶人欲」とあります。之に依りて道徳を修養して向上して、政事教育農工商業等、何でも盛になるすべての、活き／＼した精神を興へるは愛敬であります。故に外國人が蒸氣を發見したと同様に、我にあつては精神的の蒸氣の力を發揮する様にとめなくてはなりません。法律の力で強制的孝を強ゆ事は今日では出来ません。又面白くありません。精神的の教育の方から仕なくてはなりません。又敬は規律、愛は趣味であります。學問を愛するのでなくては進歩しません。一方に於ては紀律を以て之を締めなくてはなりません。

第九章 孝治の事を記す。歡心を得るには人々は互に親愛がなくてはなりません。天子は上は貴族下は賤が伏屋に住む人に至るまで之を歡ばせなくてはなりません。歡心と歡心の結びつきがよい。親は子、子は親の歡心を得る様に仕なくてはなりません。眞のやさしい心をもつて仕なくてはなりません。

第十章 聖治の事を記す。聖人が國を治めるには徳をもつて基となす。天の神と我が先祖とを一所に祭るが孝道の極致であります。

第十一章 父母の生績。父母の重大なる恩の事が記されてあります。

第十二章 孝の優劣を記せり。豪い人は己の徳を脩めて自然と他の人も我を畏愛する。様にする畏れなくては眞に従はれない、愛さなくては眞に慕はれない。此の兩者があつて初めて教育も政治も出来ず。我身を修めて、即徳教に由つてしなくてはなりません。昔から法治とて韓非子なども云ふて居りまして今は、盛に法治國などと言ひますが、實は徳教國とならなくてはなりません。我國は元來徳教國で法治國以上であります。

第十三章 紀孝行の事。親の病氣の介抱より喪祭等の事に及び、即親の生て居る時はよく仕へ死しては喪にあり。又祭を怠らぬ様にする事であり、親に仕へるには驕らないこと、亂暴をしいこと、又争はないことの三つを誠めてあります。

第十四章 五刑のことを記す。三千個條の刑罰の内不孝の罪が一番重いとあります。

第十五章 廣要道であつて、親愛と禮順を重んじなくてはなりません。親愛は油の様で禮順は機械であります。故に機械に油を漉ぎて快よく運轉される様にしなくてはなりません。

第十六章 廣至徳。聖人でも何千萬人には教へられないから、家庭が道徳の中心となりて、自然

と萬人に及ぼすことが大切であります。恰も電車に電流を通ずると大に活動する。我國も忠孝と云ふ電流に依りて、國が繁榮します。其無限の發電所は皇室であります。日本は萬世一系の天皇を戴いて居ますから一度も停電したことはありません。

第十七章 應感の事。「孝弟之至。通於神明。光於四海。亡所不暨。」先帝陛下は皇祖皇宗の御志をつぎ、遠くは後醍醐天皇近くは御父君孝明天皇の思召を體し、王政復古大政維新の大業を成就なされました。日本が支那に勝ち露西亞を破つたのは只忠良な臣民の力ばかりではなく、皇祖皇宗の御稜威に依ります。即天祐に依るのであります。

第十八章 行が内に修まつて、名譽は後世に揚る。求めずして得た名は尊くして、求めて得た名は卑しいのであります。

第十九章 閨門。道德は家庭より發し、家庭は少なる國家であります。國家を進めるには先づ家庭を進めなくてはなりません。

第二十章 從順のみでは何事もよろしくない。親に對しても盲従はいけません。親に悪い事がありました時は、心から諫めるのもつて眞の孝としております。天子を諫めるに七人諸候を諫めるに五人大夫に三人の意見をする人がいると云ふてあります。我々は意見をしてくれる友人をもたなくてはなりません。併し諫めるには顔色を和らげてうまく仕なくてはなりません。

第二十一章 君に仕へるには其の清き愛を君に捧げなくてはなりません。進んでは君に忠を盡さんことを思ひ退いては君の過を補はんことを思ふべしと云ふことが教へられてゐます。

第二十二章 親の生てある時仕へるには愛敬をもつてし、死後は喪を善く守れと教へられてあります。木靜かならんと欲すれども風止まず、子養はんと欲すれども親またすと云ふ古人の語は誠に痛切であります。故に諸君は何百里隔つとも親の心を体して、我品行を慎み、人格を高めて、親の膏と血とを絞つた學費で勉強して居ることを忘れてはなりません。孝道と云ふものをよく知らなくては、夫に仕へるにも、只皮相の愛でありまして、長く續かないのであります。夫婦は精神と精神の結合でありまして、虚榮の愛ではありません。皆さんの多數は良妻賢母となられましようが其れには孝道を第一にして、他日之から出た夫婦の眞の情愛を永久保たなければなりません。西洋のことは私は篤と存じませぬからあまり云ひませぬが日本と支那とに就て云いますと、天照太神は即我々の第一御先祖で尤も尊い御方であります。そして日本の文明の元祖でゐらせられます。天照太神は御存じの通り女神であります。茲に於て女の誇りであります。又神后皇后は三韓を御征伐になりました。彼の國の文明を輸入せられました。近くは皇太后陛下は御賢明に渡らせられました。宮中より風化して追々と日本を御進めになりました。扱技術は固より修めなくてはなりません。第一に道德を修養しなくてはなりません。忠孝を一致にして、あらゆる所に推し擴めて

行かなくてはなりません。孝道を基礎として博愛慈善其他の美德にまで及ばさなくてはなりません。周公は支那三千年間の法權を定めた國際法の事、實業を保護することを定められた人で、明治維新の法制にも之に依る所が多くあります。又周公の兄武王は周室革命を創めた人でありましたが、父の文王は徳が高くありました、而して其皇后が人並に勝れて淑徳がありました。大王にも王季にもみなよい王妃がおはしました。大王には大姜王季には大任文王には大妣と云ふ方々でありました。大任は胎教と云ふ事を初めて教へられました。大妣は女は内を治め男は外に動くのが、人倫の道であると云ふ事を自ら行つて示されました。

今日本には歐米の文明が輸入されつゝありますが、何も文明國の事だからとて無暗に真似てはなりません。我國古有の美德を發揮仕なくてはなりません。此の孝道の精神を根本として博愛慈善あらゆる美德を發揚しなければなりません。

兎に角人道の基は愛で、愛を養ふは孝であります。又國家を治めるには忠孝であります。忠孝一致しなくては國は治まりません。又教師としても人の母としても人の妻としても、此の大精神に基かなくてはなりません。故に孝道は國家の發展の大原動力であります。

麵麩につきて

麵麩を大別して食麵麩と菓子麵麩と致します。私共は主として食麵麩について研究し、且家庭で輕便に出來ます所謂ふかしばんの様なものを少し研究して見ました。

一、食麵麩につきて、普通に食麵麩にはイギリス麵麩、フランス麵麩、フスマ麵麩、黒麵麩等御座います。之等は何れも材料製法に大差は御座いませんが其の形、焼き方等に依りて分れるので御座います。イギリス麵麩とは私共が通常用ひますもので、此の中にも亦原料焼き方等に依つて上下の區別が御座います。フランス麵麩とは前者よりも麵麩として上等なもので御座います。フスマ麵麩とはイギリス麵麩に所謂フスマの粗さの中位のもを混じて焼いたもので御座います。フスマとは小麥からメリケン粉を製しました後の眞皮の碎けたもので御座います。黒麵麩とは以上の諸種と異り粉の精製しないものを用ふるのを本體と致します。そしてヒエズと申します我國の牛蒡の種の様なものを粉末にしたものを入れますから黒くなりますけれど、蛋白質鹽分等の含量は多くございますが又カルデシーズと云ふ香料を入れますから高價で御座います。又消化吸収の度に於いて劣りますから矢張り白麵麩の方が優る様でございます、次に材料製法について申し上げます。